



第4章 地域歴史遺産を活用できる人材の育成

河島, 真
古市, 晃
村井, 良介
横山, 朋子

(Citation)

歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業, 14(平成27年度事業報告書):49-52

(Issue Date)

2016-03-22

(Resource Type)

report part

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81009352>



第4章

地域歴史遺産を活用できる人材の育成

地域歴史遺産の活用をはかるリーダー養成教育プログラム

人文学研究科地域連携センターでは、2004年度から2006年度まで、工学部建築学科などと協力しつつ、文部科学省の支援をうけ、「地域歴史遺産を活用できる地域リーダー」の育成を目的とする学生教育プログラムの開発に取り組んできた(文部科学省・現代的教育ニーズ取組支援プログラム)。この事業によって開発された教育プログラムが、2007年度から文学部と大学院人文学研究科の正式科目として採用され、とくに人文学研究科では、「地域歴史遺産活用研究」「地域歴史遺産活用演習」(前期課程)と「地域歴史遺産活用企画演習」(後期課程)の3科目が、研究科内の「選択必須共通科目」として位置づけられることになった。地域連携センターでは、2007年度来、これら3つの科目の授業内容と素材を提供している。

3科目のうち、「地域歴史遺産活用研究」(学部講義名は地域歴史遺産保全活用基礎論A・B)は、地の地域歴史遺産の現状と課題を把握し、その活用のための基礎的知識と能力をつける入門講義である。また「地域歴史遺産活用演習」は、地域歴史遺産の分類・整理・解説・展示活用などの実践的方法を学び取る専門的演習である。さらに「地域歴史遺産活用企画演習」は、その活用ための企画展示等を自治体関係者や地域住民と一緒に企画考案するような実践的演習である。

専門コースの学生・院生は、この3つの講義・演習をすべて履修し、専門外コースの学生・院生は、まず「地域歴史遺産活用演習」を取得し、自分自身の興味にしたがって「地域歴史遺産活用企画演習」を履修することが望ましいと指導された。以下、9年度目に入った各授業、演習の中身の概要について記す。なお3つの講義のうち、「地域歴史遺産保全活用基礎論A」は、博物館学科目の「博物館資料論」としても開講された。

1. 地域歴史遺産活用研究(学部向けは「地域歴史遺産保全活用基礎論A」(前期)・「地域歴史遺産保全活用基礎論B」(後期))

〈前期・A〉

神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター編『「地域歴史遺産」の可能性』(岩田書院、2013年)をテキストとし、以下の内容で授業を行った。

第I部 地域社会の変容と地域歴史遺産

- ① 4/10 「序論(地域社会の未来のための地域歴史遺産)」(奥村弘・人文学研究科教授)
- ② 4/17 「市町村合併の現状と課題(近現代における地域社会の成り立ち)」(河島真・人文学研究科准教授)
- ③ 5/1 「博物館の現状と課題(歴史系博物館論)」(古市晃・人文学研究科准教授)
- ④ 5/8 「自治体史編纂事業の役割」(村井良介・地域連携推進室学術研究員)

第II部 新しい地域歴史資料学の構想

- ⑤ 5/22 「地域歴史資料学とは何か」(市澤哲・人文学研究科教授)
- ⑥ 5/29 「地域歴史遺産の救出活動」(川内淳史・歴史資料ネットワーク事務局長)

- ⑦ 6/5 「現代資料論—震災資料を手がかりに—」(佐々木和子・地域連携推進室研究員)
 - ⑧ 6/12 「地域社会と文学館」(井上勝博・芦屋市谷崎潤一郎記念館学芸員)
 - ⑨ 6/19 「災害資料のもつ意味と展示・活用」(吉川圭太・人文学研究科特命講師)
 - ⑩ 6/26 「地域文献資料の活用」(木村修二・人文学研究科地域連携センター学術研究員)
- 第Ⅲ部 地域歴史遺産と地域歴史資料学を担う人々(地域歴史資料の保存と活用)
- ⑪ 7/3 「地域への愛着・関心とまちづくり—丹波市での取組」(前田結城・人文学研究科地域連携センター学術研究員。ゲスト上田脩・丹波市棚原自治会 PU 事業推進委員会)
 - ⑫ 7/10 「地域文書館(史料館)論」(河野未央・尼崎市立地域研究史料館職員)
 - ⑬ 7/17 「歴史遺産の活用と大学のはたす役割」(坂江渉・兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室研究コーディネーター)
 - ⑭ 7/24 地域歴史文化の担い手としての高校教員」(河島真・人文学研究科准教授)
 - ⑮ 7/31 「まとめ—書き残すことの意味—」(大槻守・香寺町史研究室主宰／コーディネーター—市澤哲・人文学研究科教授)

〈前期・B〉

神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター編『「地域歴史遺産」の可能性』(岩田書院、2013年)をテキストとし、以下の内容で授業を行った。

- ① 10/2 「序論—地域の歴史遺産とその保全—」(奥村弘・人文学研究科教授)
- ② 10/9 「文化財とはなにか」(村上裕道・兵庫県教育委員会事務局参事兼文化財課長)
- ③ 10/16 「兵庫県内の地域の文化財—埋蔵文化財とはなにか—」(山下史朗・兵庫県教育委員会事務局文化財課副課長兼文化財班長)
- ④ 10/23 「兵庫県内の地域の文化財—史跡・文化的景観—」(岡崎正雄・兵庫県立考古博物館社会教育推進専門員)
- ⑤ 10/30 「景観復元とまちの形成—地図、地形環境と土地の履歴—」(菊地真・人文学研究

科准教授)

- ⑥ 11/6 「兵庫県内の地域の文化財—仏像を中心に—」(神戸佳文・兵庫県立歴史博物館学芸課長)
- ⑦ 11/13 「兵庫県内の地域の文化財—近代化遺産を中心に—」(足立裕司・神戸大学名誉教授)
- ⑧ 11/20 「地域の文化財の発見」(黒田龍二・工学部教授)
- ⑨ 11/27 「遺産の保存をめぐる—農業と農耕文化を中心に—」(堀尾尚志・神戸大学名誉教授)
- ⑩ 12/4 「大規模自然災害と文化財救出、その効果について」(内田俊秀・京都造形芸術大学名誉教授)
- ⑪ 12/11 「地域歴史遺産の保全・継承と活用を考える—襖の下張り資料—」(尾立和則・前京都造形芸術大学教授)
- ⑫ 12/18 「歴史的建造物の保存・修復」(足立裕司・神戸大学名誉教授)
- ⑬ 1/8 「博物館運営と歴史遺産の活用」(山地秀俊・経済経営研究所教授)
- ⑭ 1/15 「都市景観とまちづくり」(三輪康一・工学研究科教授)
- ⑮ 1/22 「障害者にやさしい歴史遺産の活用」(高田哲・保健学研究科教授)

〈全体を通して〉

本年度も昨年度に引き続き、Aの講義を「地域文献史料」に関わる講義とし、Bをそれ以外の「地域歴史遺産」すなわち歴史的建築物、美術工芸、埋蔵文化財、農業遺産、都市景観等に関わる講義として編成した。

Aの講義は市澤が、Bの講義は河島が統括した。受講生は学部・大学院を含めてAが約80名、Bが約40名であった。

(文責・河島真)

2. 地域歴史遺産活用演習(学部授業名は「地域歴史遺産活用演習A」、大学院文学研究科は「地域歴史遺産活用演習」、人文学研究科は「地域歴史遺産活用企画演習」)

本演習は、地域歴史遺産の保全・活用を実践しう地域リーダーの養成を目的としている。特に文献史料の取り扱い、整理、目録作成、解読をおこなう基礎的な能力を実践的に習得することを目的とした演習として、夏期と冬期に2回にわたり事前指導講義と合宿形式（集中講義）でおこなわれた。授業の履修者のほか、日本史研究室の院生・学生などの希望者も参加した。

夏期（2015年8月23日～25日）は、神戸大学篠山フィールドステーションにておこなわれた。篠山市日置地区で発見された中西家文書、および福住地区の樋口家文書を用い、整理と目録カードの作成方法を学びつつ、内容を解読した。最終日には、班ごとに整理した史料の内容を紹介し議論した。

冬期（2016年2月23日～24日）は、三木市旧玉置家住宅にておこなわれた。三木市平田区有文書を用い、整理と目録カードの作成方法を学びつつ、内容を解読した。最終日には、三木市方々を交えて班ごとに整理した史料の内容を紹介する成果報告会を開催した。

（文責・古市晃）

地歴科教育論D

「資質の高い教員養成推進プログラム」として採択され、2006～2007年度に実施した「地域文化を担う地歴科高校教員の養成」以来、現在まで継続してきている兵庫県立御影高校との連携事業を、今年度も引き続き実施した。センター関係教員が指導する「地歴科教育論D」では、御影高校総合人文コースの課題学習を指導することを通じて、地域文化を担う社会科・地歴科教員の実践力を身に付ける授業を行った。今年度は「神戸弁」「神戸スイーツ」「ケミカルシューズ」「トライやるウィーク」「神戸電鉄」「フェニックス計画」「イ

ノシシ」「神戸とインド人」「災害と外国人」「神戸空襲」の10のテーマ（10班）に分かれて研究を行い、このうちの「トライやるウィーク」と「災害と外国人」についての研究が、11月21日（土）開催に開催された関西学院大学総合政策学部主催のリサーチフェアに参加し、「災害と外国人」についての研究が奨励賞を受賞した。

また、受講生の中から、2月9日（火）には世界史2人、日本史2人が、御影高校2年生のクラスで実習を行い、同校教員の指導を受けた。世界史はキリスト教の成立とローマ帝国への広がりについての授業を、日本史は日中関係に焦点を当てて福原京＝日宋貿易と日中戦争に向けての軍拡をテーマとする授業を行った。

（文責・河島真）

特別研究「地域歴史遺産保全活用教育研究を基軸とした地域歴史文化育成支援拠点の整備」事業を定着・普及させる活動

2010～2012年度特別研究「地域歴史遺産保全活用教育研究を基軸とした地域歴史文化育成支援拠点の整備」事業で開発した、地域歴史遺産を活用できる人材育成プログラムを、普及・定着を図り、2013年度より「まちづくり地域歴史遺産活用講座」とそのオプションプログラムである「古文書解読初級講座」を実施している。

1. まちづくり地域歴史遺産活用講座

歴史文化を地域づくりに活用し、次世代に残していくためには、その担い手となる人材の育成が必須である。このため2010～2012年度の特別研究プロジェクトでは、その人材育成の取り組みの一環として、市民向けに、地域歴史遺産をまちづくりに活用するための基礎的な知識や技術を学ぶ「まちづくり地域歴史遺産活用講座」（以下、活用講座）のプログラム開発をおこなった。3年間で計8回の試行プログラムをおこない、プロ

グラムの内容がほぼ固まったため、2013年度からはそれにそって原則として年2回(学内1回、学外1回)、活用講座を開催することとなった。

今年度は学内での開催については、人文学研究科の公開講座としておこなった。受講者は9名であった。学外については、3月13日(日)に姫路市香寺町において開催する予定である。学内で開催された講座の内容は下記のとおり。

(1) 学内

日程：2015年10月17日(土)・18日(日)

場所：神戸大学文学部B棟小ホール

主催：神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター

共催：兵庫県教育委員会

後援：神戸市教育委員会・灘区

スケジュール

10月18日(土)

10:00～10:10 開講挨拶・趣旨説明・事務連絡

10:10～11:10 地域歴史遺産とまちづくり
(奥村弘)

11:20～12:20 地域歴史遺産活用事例の紹介
(村井良介)

13:10～13:30 参加者自己紹介

13:30～14:40 災害から地域資料を守る(川内淳史)

14:50～15:50 歴史資料取り扱いの基礎Ⅰ
(村井良介)

16:00～17:00 歴史資料取り扱いの基礎Ⅱ
(木村修二)

10月19日(日)

10:00～11:00 地域の歴史の見方・近現代(河島真)

11:10～12:10 地域の歴史の見方・古代(高橋明裕)

13:10～14:10 地域の歴史の見方・中世(村井良介)

14:20～15:20 地域の歴史の見方・近世(木村修二)

15:20～15:50 アンケート記入

15:50～16:50 意見交換会

16:50～17:00 修了書授与・閉講挨拶

(文責・村井良介)

2. 古文書解読初級講座

2015年11月5日から26日の毎週木曜日、計4回の日程で神戸大学人文学研究科学生ホールにて開催した。これまでの「まちづくり地域歴史遺産活用講座」の受講生に案内し、12名の参加者があった。講師は河島裕子氏(神戸大学非常勤講師)が務め、「辞書の引き方について初めてきちんと教えてもらい、大変分かり易く良かった」「地域の資料館に保存されている古文書の部分解読が出来るようになり、大変嬉しかった」と好評であった。

(文責・横山朋子)